２０１１年１２月２０日　発行　　第７号

しがの里山や川を美しくする会

しがの里山だより

きれいな川･ホタル復活講演会　報告

１２月　４日（日）和邇公民館において「きれいな川・ホタル復活講演会」が開催されました。約２０名の方々に来ていただきました。５月と６月に行われた２回の勉強会、７月のホタル観察、和邇周辺の川の観察。そして、今回がホタル復活へ向けて今年度行われた活動の集大成です。

守山ほたるの森資料館 竹内辰郎館長の講演の内容

・ほたるの生態について・・・

ほたるが飛び交う６・７月が過ぎると翌年３月までの９ヶ月間は幼虫の姿で水の中で生息し、**ほたる**と**川の水**の関わりは非常に強いといえる。４月に上陸した幼虫はさなぎから成虫になる。この３ヶ月間は草むらにいるので、**草刈の時期をずらす**ということも大事である。

・守山ボタルの歴史・・・

明治・大正の頃までは天然記念物に指定されるなど守山のゲンジボタルは有名だったが、戦後、川の水が汚れ絶滅した。

・市民と行政のパートナーシップ・・・

行政の取り組みとしては、「守山市ほたる条例」の制定･「ほたるの森資料館」の開設がある。自治会の取り組みも活発で、各自治会で川を清掃したり、子供たちを集めて川の勉強をしたり、看板を作ったりしている。

・NPO 法人びわこ豊穣の郷・・・

ほたるの森資料館の指定管理者である「びわこ豊穣の郷」は３５０名の個人会員と、７０の自治会を含む１０１の団体が加入していて、年４回の水質調査、河川ウォッチング、ほたるの幼虫の飼育・放流などの活動を行っている。

パネルディスカッションでは、南郷「ホタルの学校」荒井紀子さんのお話があり、「草津でホタルを楽しむ会」の鈴木道広さんも交えて活発な意見交換が行われました。

また、参加者から、水質調査の方法は？　ほたるの幼虫を守山からもらえるのか？　和邇周辺に今でもほたるはいるのか？　などの質問も出て、今後の活動に向けたヒントになりました。

和邇川上流の「豊島・汚染土壌持ち込み処理」について―その２―

９月の「しがの里山だより」でお伝えしましたが、香川県豊島に不法投棄された大量の産業廃棄物の処理は、産廃の真下にある汚染土壌を、和邇川上流のＹ砂利施設で水洗浄処理することになりました。処理量は約７万トンです。

この問題で、５日夜、和邇支所に香川県廃棄物対策課の職員５名が訪れ、「汚染土壌の水洗浄処理について」説明されました。しかし、参加された和邇学区の関係者からは、次々に厳しい質問が投げかけられました。香川県の過去の対応のまずさや「なぜ、遠い香川県から琵琶湖を抱えるこんな所へ持ってくるのか」、「昨年、濁流が流れ出する事故があった。風評被害も含めて、何かあったら責任がとれるのか」と言った意見です。

「和邇川上流で処理されたら困る」と言うことが共通した意見でしたが、香川県は説得を続ける意向で、近く伊香立の住民に対しても説明するようです。和邇川上流は、今でも、たくさんのトラックが行き来し、残土や汚染土壌を運んでいます。将来にわたって美味しいお米を作り続ける事が出来る、鮎が群れをなす、きれいな和邇川にするためにどうしたらよいか、皆が知恵を出す時です。

声

一年間の活動を振り返って

「しがの里山や川を美しくする会」が昨年末に任意団体として発足して、約１年になります。そして今年の４月には、私たちの活動計画が「大津市パワーアップ・市民活動応援事業」として認められました。以来私たちは、和邇川の現在の環境や水質について勉強し、昔のように近隣の里山に多くのホタルが戻ってくることを願ってホタル復活のための勉強会も重ね、そして和邇公園の清掃活動などにも取り組んできました。　しかし残念ながら現状は、近隣のどこの河川でも水質は年々悪化しておりホタルの復活には程遠い情況です。

それでも私たちは、ホタルや鮎や小魚が住めなくなるような自然環境（及び水質）の悪化をこれ以上放置することは出来ないと考えています。何故なら、小動物の住めなくなるような環境悪化は、ひいては人間にとっても住み辛い環境へと繋がってゆくからです。

いま私達は、自然環境の悪化や水質汚染は何が原因であるのか、どうすれば防ぐことが出来るのか真剣に向き合って勉強してゆく必要があると思っています。

そして環境悪化の原因を取り除いてゆくために、小さな事であっても一つひとつ出来ることから積み上げてゆきたいと思います。

いまは少人数の活動で大したことも出来ませんが、是非多くの皆さん方のご賛同ご協力をいただきながら、共に美しい住みよい自然環境を取り戻し護ってゆきましょう。

副理事長　筒井

会員募集

●正会員：２０００円

●賛助会員：１０００円

●通信会員：無料

会員の方で、２３年度の会費がまだの方はお願いいたします。